

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS 2010年 (平成22年)9月

28号

新しい仲間が集まり第2期がスタート!

市民が自らまちの課題を見つけ解決する実践組織として、多摩区と協働して地域課題の解決に取り組んできた「多摩区まちづくり協議会」は第2期目(平成22・23年度)を迎えました。新役員とともに新たな体制で第2期の活動をスタートさせます。今後も幅広く多摩区民の皆さんの意見をお聞きしながら、まちの課題解決に向けた取り組みをオープンに進めていきます。



第2期まちづくり協議会の委員の皆さん

課題解決に果敢に取り組みます 会長 本多正典



本多正典会長

日ごろより、多摩区のまちづくり活動に、ご理解、ご支援をいただきありがとうございます。第2期を迎えた多摩区まちづくり協議会のスタートにあたりご挨拶申し上げます。

区内のまちづくりに関する課題を自分で提起し、自ら解決することを基本に、2年前に多摩区まちづくり協議会の活動の主体をプロジェクト制に置き換えました。そして6つのプロジェクトがスタートいたしました。その第1期の成果は、今年2月のまちづくり活動発表会(まちカツ!)で発表させていただきました(広報紙27号に掲載)。

今期の活動は、公募委員17人、団体推薦委員13人とプロジェクトメンバーで推進することになりました。第1期からの継続委員に20人の新委員が加わり、新しい課題解決に果敢に取り組む活力が感じられます。

今期は、意思決定の迅速化とプロジェクトとの連携強化を図るために組織の簡素化を図りました。すなわち実質的な運営を、まち協役員とプロジェクト代表を中

心に構成する運営委員会に委ねることにしました。これから2年間、区民の皆さまのご参加とご協力をいただきながら、ご期待に沿えるような活動をしてまいりたいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

役員紹介

- 本多正典 会長 / 枅形(在住37年)
興味: 日本・中国の歴史、陶芸の話と作成
思い: 子どもから大人まで和・いたわりの心を持った、活力あるまちづくりの一助となるプロジェクトを目指したい。
- 久野道子 副会長 / 南生田(在住10年)
興味: 日本一周各駅停車の旅、シルクロード
思い: 活動の中で、自分には何が出来るのか、何をしたいのか、何があげられるのかを常に考えさせられている。地域の方々と密にかかわり合えることを大切にしていきたい。
- 木村 功 会計 / 生田(在住34年)
興味: 国際交流、運河クルージング
思い: 区内のまちづくり活動団体やグループが定期的に交流し、互いに協力や支援し楽しく活動できるようにしていきたい。
- 石橋 吉章 会計監査 / 登戸(在住35年)
興味: 海外旅行
思い: 各プロジェクトの円滑な運営を目指したい。

私たちが活動していきます!

第2期まち協委員を紹介します。

【公募委員】	(敬称略、五十音順)
池田 倫子 井出 恵子 井上 清	
今泉 靖彦 大久保 正視 岡田 委久子	
金子 忠司 木村 功 穴倉 勝	
近田 昭泰 坪井 武信 仲丸 則雄	
久野 道子 古川 紀代子 本多 正典	
望月 定紀 矢作 明美	

【団体推薦委員】

安陪 修司 (多摩区商店街連合会)
石橋 吉章 (多摩区社会福祉協議会)
伊牟田 浩平 (多摩区町会連合会)
植村 文一 (多摩区PTA協議会)
ト部 政枝 (多摩区老人クラブ連合会)
川口 キン (多摩区地域教育会)
小泉 喜一 (多摩区民生委員児童委員協議会)
佐藤 久子 (多摩区文化協会)
田島 正子 (多摩区保育園園長会)
夏井 賢 (川崎市立中学校長会 多摩・麻生地区会)
長谷川 淳 (川崎市立小学校長会 多摩支部)
古谷 欣治 (多摩区町会連合会)
萬年 豊子 (多摩区地域女性連絡協議会)

以上の委員30人と、プロジェクトメンバー18人の、合計48人で活動を進めていきます。

まち協のなかまたち

プロジェクトメンバーは随時募集中です。

まちづくりカレンダー

※詳細は広報紙27号の「まちづくりカレンダー」を参照してください。

防火協会の取り組み

多摩防火協会では、住宅からの出火による死者をなくすため、住宅用火災警報器の普及啓発活動と共に設置促進の活動を多摩消防署と連携して行ってきました。既存の住宅では、住宅用火災警報器の設置期限は来年の6月31日までです。多摩防火協会は、火災予防広報などのため広報自動車を購入し、住宅用火災警報器の普及啓発活動をより一層効率的に推進していきます。大きな文字が読み取りやすいですが、多摩区で皆さんにお目にかかれるのを楽しみにしています。

多摩の暮らし～歳時記

～七夕と重陽の節句～

7月7日は、七夕(棚機=たなばた)の節句です。1月1日人日(じんじつ)の節句(元旦)、3月3日上巳(じょうし)の節句、5月5日端午(たんご)の節句とともに、日本の五節句のうちのひとつに数えられています。牽牛星(けんぎゅうせい)と織女星(しょくじょせい)を祭る行事は、庭に葉竹(はたけ)を立て、五色の短冊に歌や字を書いて枝葉に飾り、裁縫や手芸および字の上達(現在では子どもたちの願い事が多い)を祈ります。

奈良時代に、中国の乞巧奠(きこうでん)の習俗が伝来し、古来の「棚機女(たなばたつめ)」の伝説と結びついて宮中で行なわれたことに始まって、七夕祭り、星祭など近世に民間にも普及し、陰暦7月の異名ともなりました。七夕の飾り竹を海や川に流したり、そうめん、ところんを食べたりするようになり、後に1把(わ)のそうめん、織姫と彦星になぞらえて数本の緑とピンクのそうめんが入ったものが出てきました。

炎暑去り、菊の香り漂う頃、9月9日は陰数である九が重なることから、重陽(ちやうよう)の節句と呼ばれます。陰暦9月9日に行われる節会(せちえ)はやはり中国から伝わり、平安時代には宮中の年中行事となって、観菊の宴が催されるようになりました。菊の花は国花でもあるので、各地域で重陽宴、菊花宴、菊の節句として、菊酒(酒に菊の花びらを浮かべる)、菊の天ぷら、菊の酢のものなどに尾頭付きの魚に、お赤飯で祝い膳をしつらえお祝いします。また、菊の花で戦国武将や、名を残した人物などの人形を造り、秋祭りとして今なお継がれています。(川口)



まちづくりカレンダーに掲載する記事を募集しています。街のイベント、お知らせなどをお知らせください。詳細は事務局まで。

編集後記



大久保

早朝、船島福神社の境内に、どこからともなくウォーキングを楽しむ人や釣り人が集まり、高齢者の小さなコミュニティが生まれています。その中のHさんは、ほぼ毎朝多摩川の土手をウォーキングしながら自主的にごみ拾いをされており頭が下ががる思いです。私たちのまちづくりは、このような人の善意とコミュニティを大切に、自分たちのまちや暮らしを自分たちの手で作っていくというものです。皆さんのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。(大久保)

多摩区まちづくり協議会へのご意見・ご質問、プロジェクトへの参加申込はこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係
電話 935-3148
FAX 935-3391
メール 71tisin@city.kawasaki.jp